

育児休業に関する体験記 5

30代 46日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

特に分担はしていなかったが、母乳をあげる関係で妻の育児の割合が少し多くなり、自分は家事の割合が多くなった。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

仕事から帰り、風呂入れ、オムツ交換、授乳（ミルク）を行っている。寝る時間になると妻は寝かしつけ、自分は残った家事を終わらせる。

（妻 記載欄）休業取得者の家事・育児の参画の状況について

掃除、皿洗い、洗濯等たくさん家事を行ってくれたためとても助かった。育児も積極的に取り組んでおり、風呂入れ、オムツ交換、授乳（ミルク）抱っこ等たくさんしてくれたため負担が減った。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

担当の業務は育児休業前に一通り終わらせ、自分がいない間支障が無いように配慮した。

2. 評価・反省

育児休業中は職場とのやりとりはなく、家事・育児に専念することができた。

③自由記述

職場でも男性社員が1～2ヶ月育児休業を取ったという話を何回か聞くようになっていたため、自分も最低でも1ヶ月は取りたいと考えており、妻の里帰りが終わるタイミングに合わせ1ヶ月半取ることになった。

最初は育児についてわからないことだらけであり、焦りや不安などストレスを感じることも多かったが、育児休業で多くの時間を得ることができたため、夫婦でしっかり育児と向き合うことができた。仕事をしながらでは子どもの可愛さだけではなく、育児の大変さや辛さを深く理解することはできなかったと思う。この経験をしたからこそ、仕事に復帰し育児に臨める時間が減ってしまった今でも、妻1人に任せることなく少ない時間でも「子どもと関わり育児をしよう」、「家事も協力してやっ払いこう」と意識を持ち続けられるのだと思う。

何より、1ヶ月半という短い期間でも子どもはものすごく成長し変化していったため、それを間近で見られたことが育児休業で得た1番貴重な経験だった。